

取扱説明書
RFスピーチプロセッサ
MODEL RF-550
RF-440



DAIWA DAIWA CORPORATION

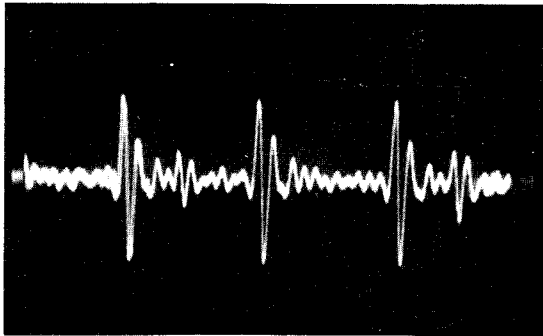
このたびは、DAIWAスピーチプロセッサーRF-550・RF-440をお買
上げいただきましてありがとうございます。

本機の性能を十分にいかし、永くご愛用いただけますよう、お使い
になる前には必ず本取扱説明書をお読み下さいますようお願い申
しあげます。

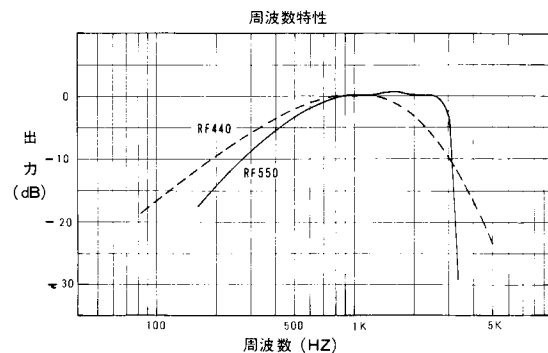
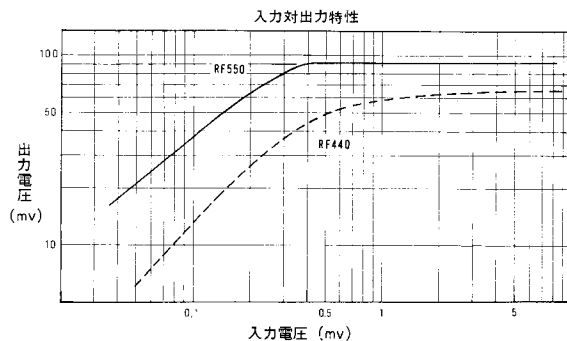
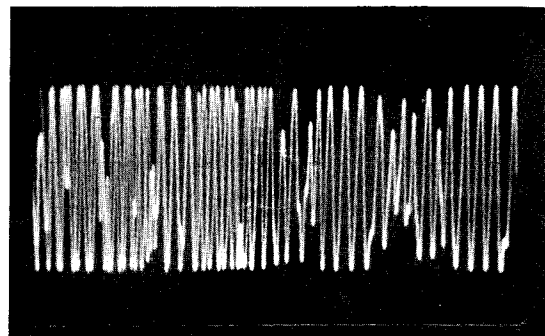
特 徴

- ピークパワーを一定に保ったままで平均電力を6dB(4倍)増加させます。(写真-1、2参照)
- RF-550は音声入力を10.7MHz(RF-440は60KHz)のSSB波に変換して、波形処理を
行っており、このため2次、3次等の高調波がフィルターによって除去されますので、
高調波歪成分が音声帯域内に表われず非常にすっきりした音声を得られ、クリアーなパ
ンチの効いたプロセッサー効果がお楽しみいただけます。
- RF-550はSSB波の発生には10.7MHzのクリスタルフィルターを、またRF-440で
はPSNによる60KHzのフェージングタイプSSBを採用しております。
- 送信機への音声入力レベルを一定の値に規定できるため、過変調を防ぎ、スプラッター
のないきれいな電波が発射できます。
- スイッチの切換でAC/DCどちらでもお使いになれます。

入力波形 写真-1



出力波形 写真-2



定 格

	R F - 5 5 0	R F - 4 4 0
ト ー ク パ ワ ー	6dB(4倍)以上上昇 (入出力のピークレベルが同一の場合)	6dB(4倍)以上上昇 (入出力のピークレベルが同一の場合)
歪 率	3%以下(1 KHz、20dBクリップ時)	3%以下(1 KHz、20dBクリップ時)
周 波 数 特 性	250Hz~3,000Hz(-12dB以上)	200Hz~3,000Hz(-12dB以上)
出 力 レ ベ ル	最大80mV rms以上(於1 KHz)	最大50mV rms以上(於1 KHz)
適合マイク インピーダンス	600Ω~50kΩ	600Ω~50kΩ
電 源	AC100V/約1.4W/DC13.5V、約80mA	AC100V/約1W/DC13.5V、約55mA
寸 法	150(W)×70(H)×150(D)	150(W)×70(H)×150(D)
重 量	2 kg	2 kg

ご使用の前に 付 属 品

●本機には次のものが付属しております。

- 1)、取扱説明書…………… 1
- 2)、品質保証書…………… 1
- 3)、外部電源ジャック…………… 1

パ ネ ル 説 明

—前面パネル—

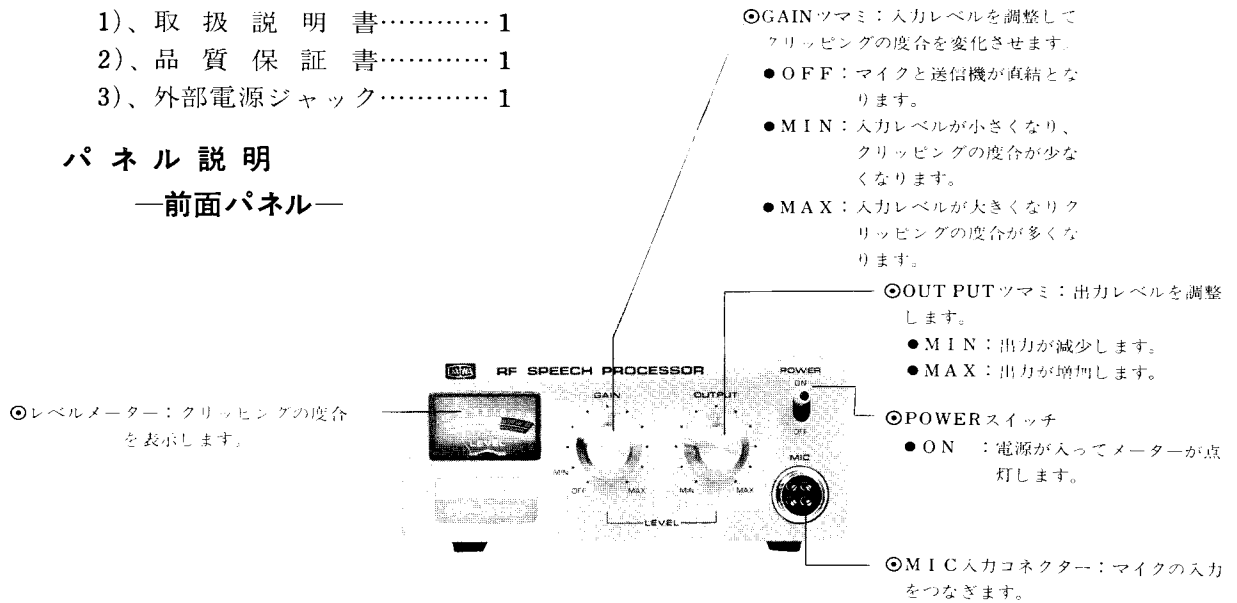
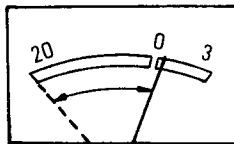
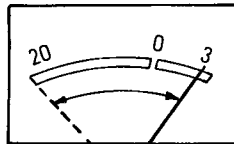


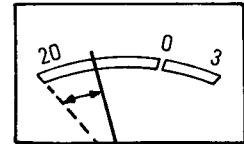
Fig-1 メーターの見方



適正

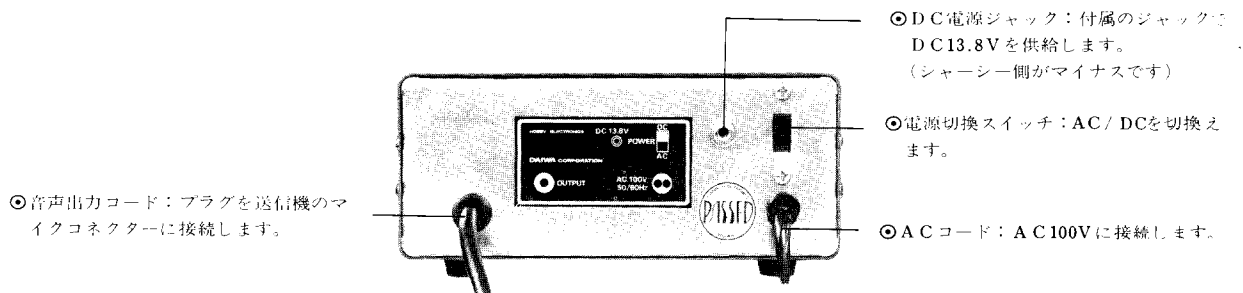


クリッピング過剰



クリッピング不足

—後面パネル—



接 続 方 法

- 1)、マイクロフォンのプラグを本機前面の“MIC.”コネクタにつなぎます。
- 2)、本機後面パネルの“OUTPUT.”表示のある出力コード/プラグを送信機の“MIC.”コネクタにつなぎます。
- 3)、100V AC電源を使用する場合は本機後面パネルから出ているACコード/プラグをACコンセントに差し込みます。
- 4)、外部DC電源から電源を供給する場合は、本機後面パネルの“13.5V DC.”ジャックに付属のプラグによりDC13.5Vをつなぎます。(シャーシ側がマイナス)、なお外部DC電源にはリップルの少ない安定化されたものをご使用下さい。

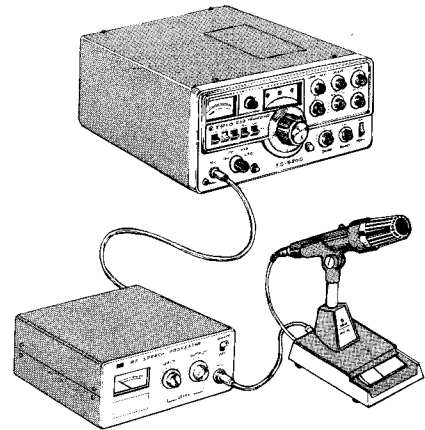
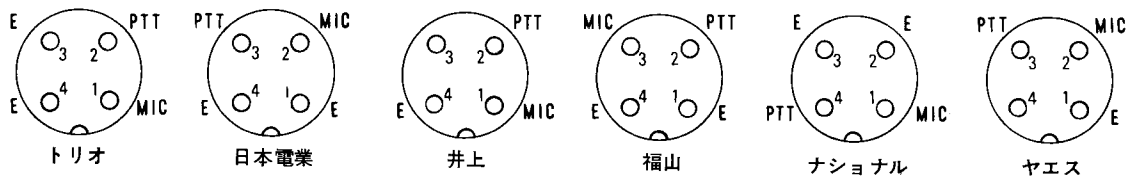


Fig-2

コネクタの配線方法

通信機のマイクコネクタの配線は、現在各メーカーがそれぞれ異なった方式を採っており、本機ではトリオの配線方式を採用いたしております。なお本機の配線とお手持ちの通信機の配線方法が異なる場合には配線を合わせる必要があります。その場合はマイクロフォンのプラグの配線をトリオの方式に合せ本機出力コードのプラグの配線をお手持ちの送信機(トランシーバー)の方式に合せて下さい。

Fig-3 各社のコネクタ配線図



操 作 方 法

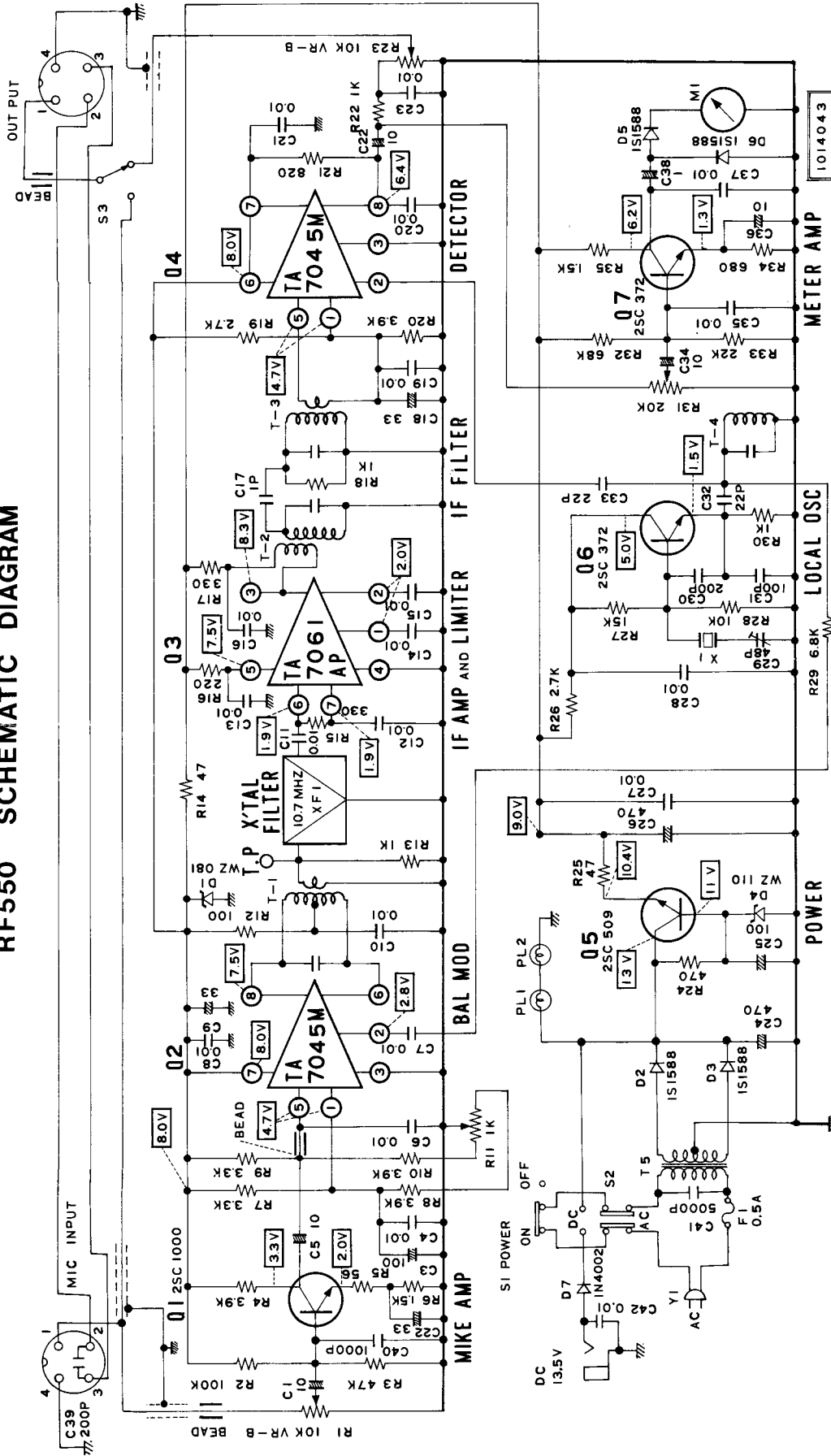
- 1)、RF-550・RF-440のパワースイッチを“OFF.”にします。
- 2)、マイクコードのプラグをRF-550・RF-440のマイクコネクタに、また出力コードのプラグを送信機のマイクコネクタに接続します。(Fig 2 参照)
- 3)、“GAIN.”ツマミを反時計方向いっぱい廻し“OFF.”にセットします。(この時はマイクと送信機は直接接続されます。)
- 4)、この状態で送信機を操作し、送信時に異常のない事を確認して下さい。(もし変調がかからなかったり、PTTが動作しない場合はプラグの結線を再度チェックして下さい。Fig 3 参照)
- 5)、正常に動作する事が確認されましたら後面の電源切換スイッチを100V AC、または13.5V DCのどちらか使用する側へ切換えます。
- 6)、“GAIN.”ツマミを時計方向にいっぱい廻します。

- 7)、"POWER,, スイッチを "ON,, にして(レベルメーターのランプが点灯します)、数秒待ってからマイクに向かって口笛を強く吹いて下さい。レベルメーターが最大を指示します。
- 8)、レベルメーターを最大に振らせたままの状態を送信します。"OUTPUT,, ツマミをゆっくり時計方向へ廻しALCメーターの針が安全ゾーンをこえない所まで上げて下さい。(注)ALCメーターのないセットの場合には、必ずモニターをして歪が少なく、そのうえ出力が最も大きくなる場所を見つけて下さい。
- 9)、"GAIN,, ツマミを調整して通常の話し方でレベルメーターが0dB いっぱいに振るよう
にセットして下さい。(Fig 1 参照)、これで調整は完了です。

ご使用上の注意

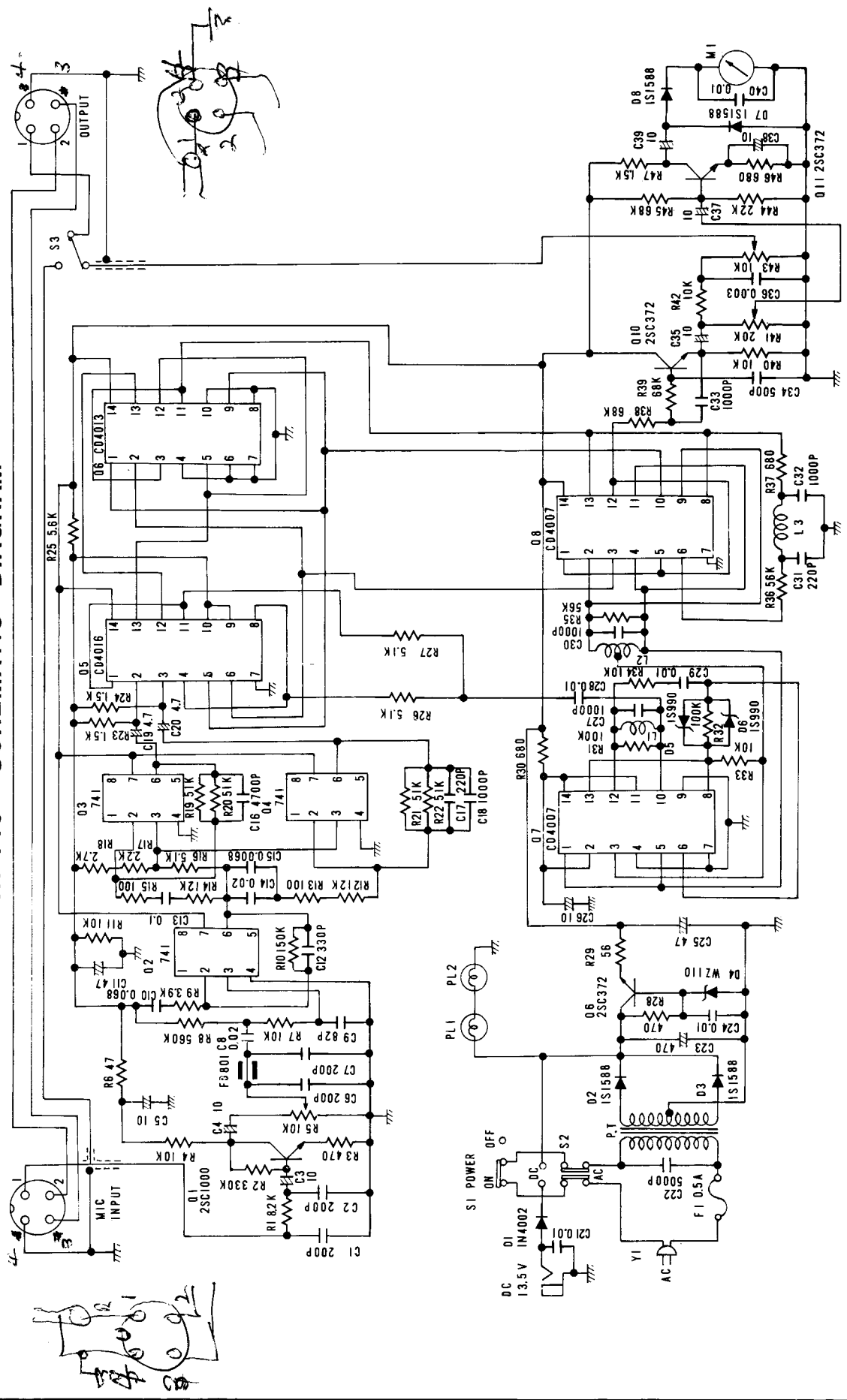
- 1)、本機の入出力回路、電源回路には高周波の廻り込み防止の対策が施されておりますが、ご使用に際しては次の各点にご注意下さい。
 - a)、コード、ケーブル：マイクコード、出力コード、電源コード、アンテナ同軸ケーブル等はおたがいに近づくないように配置して下さい。
 - b)、SWR：同軸ケーブルとアンテナを整合させSWRを1.5以下に下げてください。
 - c)、マイクコード：必要最低限の長さでご使用下さい。またマイク中継コード等はご使用にならないで下さい。
 - d)、送信機のアース：太い線を使って短かく配線した良好なアースを必ず取って下さい。
 - e)、電源：AC電源を使用した場合、廻り込みによって歪やハム音が発生しやすくなります。このような場合は直流安定化電源をご使用下さい。(安定化電源の出力端子には、 $0.01\ \mu\text{F} \sim 1,000\text{pF}$ のパスコンを取り付けて下さい)、AC電源使用の際はDC電源ジャックから外部電源コード・プラグを抜くことを、また安定化電源でご使用になる場合はAC電源コード・プラグをコンセントから抜くことを忘れないで下さい。
 - 2)、ローカル局との通信にはスピーチプロセッサは全んどその効果を発揮しません。そのような時はプロセッサは"OFF,, にして下さい。(GAIN,, ツマミ "OFF,,)
 - 3)、プロセッサの使用により送信時の平均電力が増加するため、送信機終段管の負担が通常の場合より増加しますので、ファン等での冷却を十分に行なって下さい。
 - 4)、FM・AM送信機での使用：本機はSSB送信機の出力に含まれる歪成分を押えながらトクパワーを上昇させるように設計されておりますが、FM・AM送信機でご使用になると平均変調度が上昇し明瞭度が上ります。ただしこの時キャリアの電力は増加しません。この場合の調整はALCメーターのないSSB送信機の場合と同様に必ずモニターをしながら最良点にセットして下さい。
 - 5)、設置場所：湿気の多い所や温度の高くなる所(直射日光や暖房機のそば等)はさけて下さい。
-

RF550 SCHEMATIC DIAGRAM



* 改良のために、回路の一部を変更する場合がありますので、ご承知おきください。

RF440 SCHEMATIC DIAGRAM



 **DAIWA CORPORATION**

大和無線電機株式会社

本社 〒101 東京都千代田区神田司町 2-12 TEL 03(252)1231(代)

貿易部 〒141 東京都品川区西五反田7-7-4 (第一花田ビル4F) TEL 03(493)1681(代)

企画室 〒141 東京都品川区西五反田7-7-4 (第一花田ビル4F) TEL 03(493)1681(代)

五反田営業所 〒141 東京都品川区西五反田7-22-7 (TOC 9 F60号) TEL 03(494)3478(代)

大阪営業所 〒556 大阪市浪速区日本橋東4-3 TEL 06(643)7579・(631)3459

中京営業所 〒491 愛知県一宮市昭和3-12-5 (平和ビル) TEL 0586(44)7618

九州営業所 〒812 福岡市博多区奈良屋町 5-13 TEL 092(291)6401(代)
